千葉県災害対策コーディネーター茂原10周年記念誌



活動方針(会則より)

- ★災害対策コーディネーターに関する情報交換
- **★**災害対策コーディネーターとしての知識・技術の習得
- ★関係機関との情報交換ならびにネットワークの構築
- ★その他、この会の目的を達成するために必要な活動

千葉県災害対策コーディネーター茂原 10周年記念誌編集委員会



<u>目次</u>

1.	会長挨拶	頁
	岩名地 桂・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2.	お祝いの言葉 (1)茂原市長 田中 豊彦 様・・・・・ (2)茂原社福祉協議会会長 鬼島 義昭 様・	3
3.	歴代役員名簿・・・・・・・・・・・・・・・	5
4.	組織概要・・・・・・・・・・・・・・・・	6
5.	災対コー茂原の沿革・・・・・・・・・・	7
6.	活動を振り返って(活動実績) (1)災害発生時の活動・・・・・・・・・	9
	②自己研鑽活動(防災関連施設見学と講演受講) ③茂原市との連携活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	112131456
7.	(1) HUG(避難所運営ゲーム)・・・・・・・(2) クロス・ロードゲーム・・・・・・・・(3) がれき救出訓練・・・・・・・・・・(4) 身近な物で応急手当・・・・・・・・・・・	17 18 19 20 21 22
8.	千葉県災害対策コーディネーター茂原会則・・・・・2	23
9.	付録(非常持ち出し品チェクリト)・・・・・・2	25
10.	編集後記・・・・・・・・・・・・・・ 2	26

1. 会長挨拶

会長 岩名地 桂



我々の会が、10周年を迎えることとなり非常におめでたく存 じます。

2010年4月に17名で設立し、2020年4月には「女性10名」含み80名まで会員を増員しここに10周年を迎えます。防災・減災を目的に日々教育・訓練を継続し、会員皆様の協力と努力を積み重ねて今日に至りました。その裏には行政の「茂原市総務部防災対策課」及び「茂原市社会福祉協議会」の各位の指導と、「日本防災士会北部支部」の皆様方より技術の指導が有り、良きパートナーに恵まれた賜物と思われます。

その中身は、東日本大震災では、支援物資の仕分け・支援金募金活動・被災地へのボランティア活動を実施し、茂原市の度重なる豪雨災害にも、ボランティアセンターの運営スタッフや被災者

宅へのボランティア活動に会員多数が参加し活躍してまいりました。

地元の自主防災会等に対して、我々が持っている技術を用いての教育・訓練を「HUG」「DIG」「がれきからの救出訓練」「身近にある物を使用する応急手当訓練」等、数多くご依頼が有り実施しております。

このように、我々の会が成長してきたのには「設立した初代会長及び前任の会長」の努力が多大にあったものです。

今後も千葉県災害対策コーディネーター茂原の発展と会員の皆様方のご健勝を祈念し、防 災・減殺の活動を続けるセミプロ集団として継続出来ますように努力邁進しますので、関係 各位のご協力とご支援をよろしくお願い致します。

活動時に着用する帽子とビブス







2. お祝いの言葉

(1) 茂原市長 田中 豊彦 様



千葉県災害対策コーディネーター茂原が設立10周年の記念 すべき節目を迎えられましたことに、心からお慶びとお祝いを 申し上げます。

貴会は、平成22年に設立されて以来、平素から災害対策コーディネーターとしての知識・技術の習得や地域の防災力向上に資する幅広い活動を続けてこられました。そして何より、茂原市における組織体制の強化にも努められ、現在では、80名もの災害対策コーディネーターで活動が行われていることを非常に心強く思っております。

これもひとえに、岩名地会長をはじめ歴代会長、役員並びに 会員皆様方の献身的なご努力の賜物と衷心より敬意を表する次 第であります。

そして、この10年の間には、東日本大震災を経験され、本市におきましても、平成25年、令和元年と台風による大規模な水害が発生しており、災害ボランティアセンターのもとでコーディネーター活動を積極的に行っていただくなど、多大なるご尽力を賜りましたことを重ねて感謝申し上げます。

近年、異常気象によるゲリラ豪雨や大型台風、いつ起こりうるかわからない大きな地震などによる災害に対し、どのような対策を講じていくかが、大切な命を守ることへとつながるものであり、防災・減災対策の強化は、より一層、その重要性を増しているものと考えております。

これまで、貴会が防災力向上を図るために習得した知識や技術を、地域の方々に伝授し続けてこられたことは、大変意義深いことでございます。

どうか、これからも、その活動を継続していただき、 市域のみならず多方面において、人材を数多く育ててくださいますようお願い申し上げます。

結びに、千葉県災害対策コーディネーター茂原の今後の益々のご発展と会員の皆様の ご健勝、ご多幸を心からご祈念申し上げ、お祝いのご挨拶といたします。





(2) 茂原市社会福祉協議会会長 鬼島 義昭 様



千葉県災害対策コーディネーター茂原の設立10周年を心から お慶び申し上げます。

貴会におかれましては、平成22年に設立以来、当社会福祉協議会や自主防災会と連携を図りながら、平常時から自主的に地域防災訓練活動に参加し、防災知識の普及や意識の向上、コーディネーター相互のネットワーク化を図るなど、活発に活動を展開して大きな実績を上げられております。

また、東日本大震災以降、茂原市では2度の大水害に見舞われ、 甚大な被害が発生しましたが、その度に貴会の迅速な支援活動に よって市民の生活が早期に復旧したことに、災害ボランティアセ ンターを設置する者として、そのご努力に敬意を表するとともに 心より感謝を申し上げます。

さて、日本の災害ボランティアは1995年の阪神淡路大震災から盛んになり、当時は発生から1年間で延べ137万人がボラ

ンティアに参加し、ボランティア元年と云われ、行政の手が回りきらない所で被災者の支援に あたりました。

今日、災害時の対応は「自助(自分で自分を守ること)」と「共助(地域・近隣で助け合うこと)」と「公助(公的機関の助け)」のあり方と連携が問われていますが、災害の規模が大きいほど、「自助」をサポートする「共助」「公助」の重みが増してきます。命の危機が迫っている緊急時には、お互いの顔がわかる地域や近所の助け合いが何よりも力を発揮します。さらに長期間ライフラインが寸断された時、目の前にいる人と人との支え合い、助け合いが多くの命を守ります。

ますます大規模化する自然災害に対して、普段からの備えと防災訓練が重要であると認識し、 当社会福祉協議会では災害ボランティアセンターの機能充実を図るため、毎年、貴会にご協力 をいただきながら設置運営訓練を行っております。

これからも当社会福祉協議会では、行政、関係機関、市民と一層連携を取りながら、茂原市の災害に対する安全安心を構築するために、引き続き貴会のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、千葉県災害対策コーディネーター茂原のますますの充実発展と、会員の皆様のご健 勝ご活躍を祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。





3. 歴代役員名簿

(1) 2010年(設立時)

会 長:山田 清 副会長:上村 喜典 会 計:笠原 怜司 書 記:池田 智栄子

監 査:石井 勇

(2) 2012年~

会 長:山田 清 副会長:上村 喜典 パ : 秋山 光政

会 計:川崎 功 書 記:齋藤 茂 監 査:石井 勇

(3) 2014年~

会長:山田清

副会長:石井 勇 11 :岩名地 桂

会 計:上村 喜典 川 :清水 浩 書 記:貫井 明弘

コーニ 原藤 茂

(4) 2016年~

会 長:石井 勇

副会長:上村 喜典 // : 岩名地 桂

会計:清水 浩 ル : 石川 孝

書 記:貫井 明弘 川 :斉藤 孝子

(5) 2018年~

会 長:岩名地 桂

副会長:上村 喜典 // :清水 浩

会計:石川孝

川 :斉藤 孝子

書記:貫井 明弘 11 : 浮須 哲郎





設立総会記念写真

監 查:浅野 勝昭

川 :川崎 功

事務局長:石川 孝事務局:鈴木 政一

リロー:高場 捷美リー・ : 浮須 哲郎

監 査:浅野 勝昭

パー:齊藤 樹 事務局長:鈴木 政一

事務局:高場 捷美

バ : 浮須 哲郎 バ : 鈴木 泰三

顧 問:山田 淸相 談 役:齋藤 茂

監 査:浅野 勝昭

川・齊藤・樹

事務局長:鈴木 政一

事務局:高場 捷美 ル :鈴木 泰三

> リ : 森山 征夫 リ : 堀口 正

顧問:山田清

17 :石井 勇相談役:齋藤茂

4. 組織概要

【組織人員】 80名 (2020年4月現在)

男性:70人 女性:10人

会員取得資格 防災士: 7名

長生郡市広域市町村圏組合消防

応急手当普及員:20名

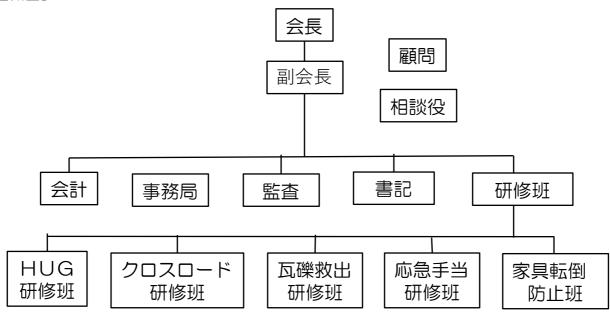
茂原市防災指導員: 14名

日本赤十字社救急法救急員 12名

日本赤十字社防災ボランテイァ

地区リーダー10名

【組織図】



【主な年間活動】

★総 会 年 1回 4月

★役 員 会 月 1回

★自 主 訓 練 年 3回程度 他団体に防災教育が出来るレベルを目指して

★自 主 研 修 年 1~2回 県内外防災関係施設見学研修

外部研修会等に参加

★防災訓練支援 各種団体からの要請に基づき、随時実施

★茂原市地域防災訓練に市からの参加要請により活動

それぞれ災対コーの役割分担に基づき実施

★社会福祉協議会主催、災害ボランティアセンター運営訓練に参加

運営スタッフ及び駆け付けボランティア役として参加

5. 災対コー茂原の沿革 (2010年設立)

年度	災対コー茂原	日本の災害内容
2010年 平成22年	4月29日 設立総会 17名にて プラザ平安茂原	元旦 豪雪被害・・・山陰地方大雪 交通網30時間立ち往生
2011年 平成23年	3月16日〜22日津波被災地のボランティア 支援 3月28日〜4月8日 茂原市役所救援物資の受付・ 仕分け作業	3月11日 東日本大震災 M9.0 震度7 東日本の太平洋沿岸部大津波 福島原発津波被害 3月12日 長野県北部地震(栄村大地震) 震度6強 家屋倒壊・土砂崩れ 9月 2日 西日本各地で豪雨災害「台風12号」 紀伊半島で甚大な被害
2012年 平成24年	2月10日 茂原市役所コーディネーター 養成講座ファシリテーター 8月25日 茂原市地域防災訓練(豊田小)	5月 6日 関東竜巻被害・・・茨城県で甚大な被害
2013年 平成25年	8月24日 茂原市地域防災訓練(本納地区) 10月18日〜22日 茂原市台風26号豪雨災害 ボランティアセンター設置・運営 被災者の復旧支援 11月29日 普通救命講習実施	台風26号 伊豆大島にて記録的豪雨災害 土石流が集落を飲み込み 死者・行方不明者・・・39名
2014年 平成26年	2月 7日~9日 茂原市主催 コーディネーター養成講座 講師とファシリテーター 6月30日 社協ボランティアセンター立ち上げ 運営訓練(総合市民センター) 9月27日 茂原市地域防災訓練(東郷地区)	8月20日 広島市土砂災害・・安佐北区・安佐南区で大規模土砂災害 死者・・74名 家屋の全半壊・・255軒 9月27日 御岳山の大噴火災害 登山客直撃・・・死者 57名 11月22日 長野県神城断層地震 M6.7小谷村 震度6弱 倒壊家屋あるも死者はゼロ
2015年 平成27年	8月30日 社協ボランティアセンター立ち上 げ 運営訓練(総合市民センター) 9月26日 茂原市地域防災訓練(五郷地区)	5月 関東東北豪雨災害 鬼怒川が氾濫し特に茨城県常総市近辺に 甚大な被害
2016年 平成28年	2月21日〜3月12日の4日間 防災指導員養成講座 災害図上訓練(DIG)・・・14名 8月29日 九都県市防災訓練(富士見公園)	4月14日 熊本大地震(1回目)震度7 4月16日 熊本大地震(2回目)震度7 「本震」 熊本城等甚大な被害 8月度 北海道で台風により大雨豪雨災害 台風7.9.10.11号プラス前線による 大雨・暴風で甚大な被害・・ 浸水による農作物の被害・住宅倒壊
2017年 平成29年	1月28日 社協ボランティアセンター立ち上げ 運営訓練(二宮福祉センター) 7月23日 社協ボランティアセンター立ち上げ 運営訓練(総合市民センター) 9月28日~4日間 睦沢町主催 コーディネーター養成講座 講師とファシリテーター 10月 1日 茂原市地域防災訓練(二宮地区)	7月 5日 九州北部豪雨災害 福岡県/大分県にて集中豪雨 甚大な被害・・・死者 42名
2018年 平成30年	6月 2日 茂原パークシネマ実行委員会 応急手当・家具転倒防止・・市民 室 6月から2019年2月 茂原市指定避難所モデル作成 千葉県で初めてのモデル避難所を 茂原市でメンバー登録(3名)し作成 7月21日 社協ボランティアセンター立ち上げ 運営訓練(総合市民センター) 9月 3日 千葉県理容組合・・・太陽の里	9月6日 北海道胆振東部地震 M6.7 震度 7 火力発電所の緊急停止発生で北海道全般 で、295万戸で停電 7月 西日本豪雨災害・・爆弾低気圧の影響 線状降水帯による甚大な被害

年度	災対コー茂原	日本の災害内容
年度 2019年 平成31年 令和元年	(文) 1月17日~2月6日	9月 9日 台風15号房総半島直撃・・風速60mの 暴風で1都6県90万戸で長期停電と断水、 ライフラインの壊滅ノJR私鉄も大の 被害で長期化 9月21日 山梨県道志村「椿荘キャンプ場」21日 午後から行方不の女の子](7歳)。捜害・消防・明子子」(7歳)。間捜索索 ・消防・毎年の子子」(7歳)。間捜索索 ・消防・自衛隊等、10日末実 施進展・情報無し、未解決事件 10月12日 台風19号東〜東北を直撃で記録的 で多くの甚大を直撃で記録的で多くの甚大をで表し、10数軒の建物 被害。10月25日 台風21号、線状降の ・消防・電巻発生し、10数軒の建物 被害。10月25日 台風21号、線状降の ・高にの影響で豪雨の を発生・千葉県内で、 佐倉市豪雨・長雨町/長柄町・土砂災害 ・表を生。
	ボランティア活動支援 台風15~21号の被害で、30日間 総勢229名の活動支援実施	
2020年 令和元年	 2月 2日 大多喜町災害対策コーディネーターの養成講座・・ボランティアセンター講和 2月29日 木更津市災害対策コーディネーター養成講座・・茂原の活動紹介 4月18日 災害対策コーディネーター茂原の総会は、新型コロナの関係で中止 	

6. 活動を振り返って(活動実績)

(1) 災害発生時の活動

- ①2011年 〇東日本大震災
 - ・旭市津波被害復興ボランティア派遣
 - ・ 千葉県災害ボランティアセンター 電話応対業務
 - ・茂原市役所 救援物資仕分け作業
 - ・茂原社協 アスモにて募金活動







旭市津波写真

②2013年 〇台風26号水害

茂原市災害ボランティアセンター開設

- ・茂原市災害ボランティアセンター運営参加
- ボランティア活動に参加







- ③2017年 〇台風21号茂原市内避難準備発令。市役所からの要請 各避難所運営支援実施
 - ・総合市民センター・豊田小学校・早野中学校 中の島小学校・茂原小学校
- ④2018年 〇台風13号茂原市内避難勧告発令。

各自近隣避難所を支援

- ⑤2019年 〇台風15、19号被災者宅の救援活動実施 社協の要請で、チームを組んで派遣
 - ・破壊された屋根材の回収
 - 濡れた畳、家具の搬出運搬
 - 〇台風21号水害

茂原市災害ボランティアセンター開設(延べ13日間)

- 茂原市災害ボランティアセンター運営参加
- ボランティア活動に参加

次ページで詳細説明

★2019年の甚大水害の支援詳細

実際のボランティアセンターの運営は大変スムーズに実施出来た。 毎年実施していた、繰り返し実施する訓練の大切さを実感。 内容については、別紙にパワーポイントで作成した報告書が有るので参照されたい。

★災害ボランティアセンターの状況

> 〇ボランティア受入数 1,412名 *延べVO活動数 1,725名

②10/30~12/17の実績(累計)

○ボランティア受入数 1,503名*延べVO活動数 1,919名

③全国からボランティアが駆け付けてくれた 沖縄・九州・中国・関西・東海 関東・東北、県内各市町村等





- ★台風15号から台風21号に対して活動
 - ①台風15,19号被害の活動内容

令和元年9月12日~10月18日

イ)突風による被害・・飛散した瓦・トタン等の撤去

倒木の撤去・屋根の撤去etc

- 口) 雨漏りによる廃棄・家具・家電品・布団・衣類・畳等の搬出
- ハ)活動人員・・・・延べ約30名
- ②台風21号の豪雨災害・・・災害ボランティアセンター開設 令和元年10月28日~12月5日(18日間)
 - イ) 災害ボランティアセンター開設の準備
 - ・ニーズの現地調査支援・・・10/28~10/29
 - ロ)災害ボランテイァセンターのスタッフ/ボランティア支援
 - ・スタッフ・・・受付・マッチング・物資支援・駐車場・送迎
 - ・ボランティア・豪雨水害による家具・衣類・布団・家電製品 畳等の搬出及び床・フローリング等の清掃 汚染された泥の排除
 - ハ) 活動人員・・・延べ183名

(2) 平常時の活動

①自己研鑽活動(技術の取得)

2012年 HUG訓練(公開訓練・マスコミ千葉日報公開)

2013年 災害ボランティアセンター開設訓練

新規メンバー教育

市主催災対コー養成講座で 雪の為この訓練が実施出来ず 自主的に、新規メンバーを教育



2015年 「クロスロードゲーム」市民編 災対コーメンバー研修 指導できる技術習得



2016年 街歩きと「災害図上訓練」(DIG)

中央公民館とその周辺を街歩きして、危険個所・災害に役立つ施設等を確認して、地図上に記載。この内容から、この町の災害の特性をグループ別に議論し、発表する

車いすで参加



消火栓発見



結果を白地図に記入



2017年 災害ガレキ救出訓練・応急手当訓練 防災士会の指導を受け、市内の自主防災団体に紹介出来る技術 を習得する。

ガレキ救出訓練



搬送訓練



応急手当訓練



尚、訓練後に、基本的なマニュアルを作成して改訂を繰り返し て使用している

②自己研鑽活動(防災関連施設見学と講演受講)

2012年 パシフィコ横浜(地震対策展示展)

2012年 東京消防博物館・東京都庁見学

2013年 東日本大震災被災地視察(語り部から体験談) (他団体と合同)

2014年 東京臨海広域防災公園(地震発生時の体験)

2015年 旭市防災資料館(施設視察及び津波時の体験談を聞く)

2016年 海上自衛隊館山航空隊(視察及び災害派遣について講演)

2017年 陸上自衛隊霞ケ浦駐屯地(東日本大震災の活動について)

2018年 東京湾アクアライン(海底トンネル内の緊急避難通路)

2019年 首都圏外放水路(世界最大級の地下放水路の見学)

2019年 JFE千葉製鉄所・三井化学茂原分工場(安全対策について)

2012パシフィコ横浜



東京臨海広域防災公園(地震発生時の体験)



東京湾アクアライン

2012東京消防博物館







首都圈外放水路•地下神殿



③茂原市との連携活動

2011年

2013年

茂原市主催「千葉県災害対策コーディネーター養成講座」

講師・ファシリテーター派遣

2019年 2014年

茂原小学校、二次避難所開設•運営訓練

2017年 第37回「9都県市防災訓練」に参加千葉県会場

(茂原市富士見公園で開催)

救出訓練見学

災害ボランティアセンター

物資仕分け訓練







2017年~ 茂原市地域防災訓練に参加

2019年

• 「避難所運営は共助が基本」を講義

(2018年除) • 非常食作成支援 台風で中止

- ・避難所グッズの作り方指導(紙コップ・新聞紙スリッパ等)
- 応急手当指導







2018年

指定避難所(東部小学校体育館) 開設・運営訓練に参加 検討委員会・開設準備・当日展示品説明役を担当

東部小学校避難所運営等 検討委員会発行

指定避難所開設・運営準備の手引き (茂原市立東部小学校の場合)



平成31年2月 東部小学校繼難所運営等検討委員会

避難所レイアウト



仮設トイレ(ドントコイ)





④社会福祉協議会との連携活動

2013年~ 「茂原市災害ボランティアセンター」運営訓練に毎年参加 2019年

- ○訓練計画作成時から参加
- ○運営スタッフとして参加
- ○駆け付けボランティア役として参加





2019 「福祉子どもまつり」にブース展示と、新聞紙で防災グッズ作り





写真上:「新聞紙で作る防災グッズスコーナー」

スタンプラリー対象となり、多数来場。

茂原樟陽高校生徒の応援受ける。

右上:家具の転倒防止策の展示

右下: 非常持ち出し袋の中身の展示



⑤日本防災士会北部支部への協力

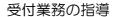
2017年 睦沢町「千葉県災害対策コーディネーター養成講座」に講師・ ファシリテーター派遣

2018年 茂原市「千葉県災害対策コーディネーター養成講座」に講師・ ファシリテーター派遣

2019年 睦沢町「千葉県災害対策コーディネーター養成講座」に講師・ ファシリテーター派遣(2回目)

睦沢町養成講座でボランティアセンター運営訓練の指導風景

ボセンティアセンターとは講義







オリエンテーション・マッチング



資材班業務の指導



2019年 千葉県消防学校研修会(市原八幡高校生対象)

2019年 君津市建設会社(新昭和)防災研修会

2019年 大多喜町「千葉県災害対策コーディネーター養成講座」

にファシリテーター派遣

2019年 木更津市「千葉県災害対策コーディネーター養成講座」

にファシリテーター派遣

⑥地域・団体訓練への協力実績

- ★防災関係講演
- 〇青少年育成茂原市民会議(環境部会)
- ○茂原市青少年相談員の会(標語表彰式)
- ○茂原市防災フェスタ

(茂原パークシネマ実行委員会)

- ・防災講演、家具転倒防止・応急手当・グッズ展示
- 〇千葉県理容組合研修会(於:太陽の里)
- ★「避難所運営ゲーム」(HUG)研修
 - ○茂原市との共催で開催
 - O社協ボランティア会)
 - 〇五郷地区まちづくり協議会
 - ○茂原市直近動員へ教育
 - 〇自主防災会からの要請 3回
 - 〇東部台自主防災会
 - 〇高師第6ブロック避難所運営協議会
 - 〇緑町自主防災団
- ★「災害図上訓練」(DIG)研修 茂原市から派遣要請
 - 〇早野新田自主防災会
 - O東部台自主防災会
 - 〇豊田地区自主防災会
 - 〇茂原小学校区防災会議
 - 〇緑町自主防災団
- ★災害ガレキ救出
- 〇東部台自主防災会
- ○高師第6ブロック
- 〇つつじヶ丘自主防災会
- 〇上茂原自主防災会
- ★応急手当訓練
- 〇東部台自主防災会
- ○高師第6ブロック
- 〇上茂原自主防災会
- ○豊岡地区自治会(茂原市地区防災訓練の指導者教育)
- 〇小林地区自治会
- ★家具転倒防止対策展示
 - 〇上茂原自主防災会
 - 〇千葉県理容組合研修会(於:太陽の里)
 - 〇緑町自主防災団
- ★クロスロードゲーム指導
 - 〇睦沢町 むつざわ防災アカデミー
- ★ロープワーク
- 〇睦沢町キッズキャンプの支援

7. 市内外への防災教育の紹介

(1) HUG「避難所運営ゲーム」(HUG)

H・・・避難所 U・・・運営 G・・・ゲーム

大勢の、色々な事情を抱えた避難民が続々と避難所に集まって来ます。天候も不順で寒く、電気・水・電話などのインフラは全て使用不可。食料も今は無い。と言う状況下で、避難民をどのように受け入れるか、どのように対応するかを、一刻を争う緊迫感の中で、なるべく早く処理しなければなりません。

避難所の収容人員・などをリアルに設定した条件下で避難所の運営を模擬的に経験し、どのような運営体制が必要か、注意すべき事柄は何かを参加者が考える事が出来ます。

5~6人程度のグループで実施します。他のグルーブの意見・疑問点を発表し合う事で、考え方の視野を広げることが出来ます。

実際に大規模災害が発生しますと、行政の対応が間に合いません、 避難民自らが、協力し合って乗り切って行かなければなりません。 共助が絶対必要な事が実感できます。

避難者・イベントカード



避難者カードを避難所に割り当てます



避難所のレイアウト図に マーカーや附箋を使って配置



最後にグループ毎に発表して 判断に困った事例の意見交換



(2) クロス・ロードゲーム

「クロスロード」とは、「重大な分かれ道」、「人生の岐路」のことであり。災害時に、 どのような行動を選べばよいのか、状況毎に大変な決断を求められることが有りますが、 その事例を、「阪神・淡路大震災」での実体験をもとに作成した例題を、YES・NO で選び、参加者が選んだ理由を議論し、ゲーム感覚で得点を争う方法です。

- 例1. 「300人いる避難所で、200食を確保した。この食糧を配るか配らない」?
 - 2. 自分は、3日分の食料を持っています。その食料を持っていない人に分け与えますか?
 - 3. 家が倒壊した、避難所に行くとき、ペットの犬を連れて行くか、行かないか?

これらをYES, NOで答えます正解は有りません、 過去の事例でも判断を間違った例も有ります。

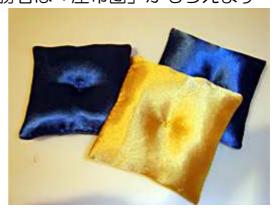
参加者が、他の意見を聞き、認識を新たにすることが出来る大変有意義なゲームです。

ゲーム感覚で使用する道具類

YES, NOカード

勝者は「座布団」がもらえます





①1人が問題カードを読み上げる

②各人が自分の意見を考える

- ③イエスかノーのカードを裏返しにして 自分の前に出す
- ④「オープン」の掛け声で、一斉に表に返す
- ⑤多数派意見の人は、全員青ザブトンがもらえる 一人しかいなかった人は、金色座布団
- ⑥ イエスまたはノーとした理由を各人が発表し、 話し合う



(3) ガレキ救出訓練

地震で倒壊した人を救い出したのは、阪神・淡路大震災の教訓から、付近の住民の共助であった事が報告されています。公助(警察・消防・自衛隊)の救出作業が活動するのは、発災後3日目以降になってしまいました。

倒壊家屋の模型と、ダミー人形を使用して、自主防災会が備えている防災機材や、 身近な道具を使用して、ガレキの下から救い出す方法・注意点を実践して学ぶこと が出来ます。特にガレキの下に挟まった人は、血液循環が遮断され、2時間以内に 救出しなければ、重篤な生命にかかわる状態になります。119番通報しても、救 急隊は超多忙で来てくれません。





- 〇各人が必ず指揮者の基に活動します。
- 〇被災者の探し方。
- ○自分たちの身の安全確保が必要です。
- 〇被災者への声掛け・励ましが必要。
- ○救出器具の取り扱いの基本を学ぶ。
- 〇けが人の搬送方法を体験します

(4) 身近な物で応急手当

大規模災害が発生すると、救急車は果たして来てくれるでしょうか? しかも十分な救急用品が手元にない時、身近な物を使っておうきゅ手当をしなけれ ばなりません。

手当の仕方の基礎を訓練します。一度訓練すると、イザという時必ず役に立ちます。

傷の手当の仕方

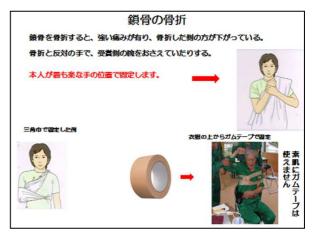


ストッキングで頭の手当



鎖骨の骨折





毛布等を担架にする



毛布と竿で担架を作る(竿の強度に注意)



(5) 家具の転倒防止策展示・説明

阪神淡路大震災では、家屋の倒壊以外でも、核の下敷きになり、脱出できずに 火災に巻き込まれたり、大きなけがや時には死に至ってしまったケースが報告さ れています。日常使用している家具が凶器になってしまいます。

日頃から、対策をしましょう。



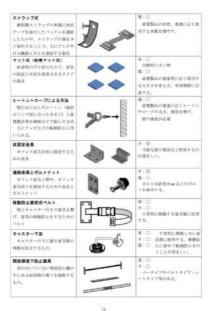




壁の間柱を見つけて固定間柱を見つける器具紹介

固定金具の各種を紹介







(6) DIG(災害図上訓練)

(市指定の訓練を受講して任命された「茂原市防災指導員」が指導に当たります)

D···· Disaster (災害)

Ⅰ・・・・ Imagination (想像力) Dig=「防災意識を<u>掘り起こす</u>」

G・・・・ Game (ゲーム)

第1段階として

DIG(ディグ)は、参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練です。 DIGでは、参加者が大きな地図を囲み、みんなで書き込みを加えながら、ワイワイと楽しく議論をしていきます。その中であなたは、あなたと家族が住む地域に起こるかもしれない災害を、より具体的なものとしてとらえることができるでしょう。また、ゲーム感覚で災害時の対応を考えることもできるはずです。

議論しながら白地図に記入



結果を発表して意見交換



第2段階では

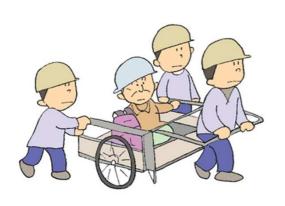
地域の人を知ることを学びます。

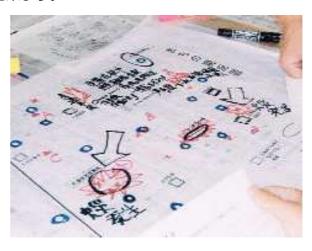
地図上にどのような住民が住んでいるのかを地図上に記載します。

災害時には、避難の支援を必要としている人もいます。

近隣の人々や自主防災会では、どの人をどんな優先順序で非難させるかを、一刻も早く判断して対応する事が求められています。

共助の体制づくりの一助となる体験が出来ます。





コピーや番号の控えなどの工夫も可。 身分証明ともなる。

連転免許証 バスポート・外国人登録証等 印鑑 証書類 住民票

健康保険証

預宏通牒 被帯電話

コピーや番号の控えなどの工夫も可

付録

1. 基本項目は、参考として一般的な家庭の大人2人のために必要な数量を設定しました

2~5は、個々の家庭や事情にあわせ、1に加えて備えを検討すべき事項です。

現金 車や家の予備鍵 予備メガネ・コンタクトレンズ等

2. 必需品·貴重品類

●個々の事情によって必要性が異なる

非常持ち出し品チェックリスト 1次持ち出し品

「一次排ち出し品」とは、避難時にすぐに持ち出すべき、必要最低限の備えて、被災時・非常時の最初の1日 間をしの心にもの勧品にす。

San		備書文モ	家の中の取り出したすいとにろに難く。 名家能で最新1つは必要。	が砂糖入り。 原佐限の食料として。	米は「1人1日3」の備えが多罪と思われるが、特が織び降の重量の点から、半分階級が終出とした。	整発電式は予備電池の備えも忘れずに、電池不要・手 整発電式もある。1人1個がベスト。	職時間の使用に進している。	ローソク・販務器員への点火などに、マッチよりも 使い酵手が気い。	被災路の信頼収集は不可欠、予羅権池も治れずに、	様々な機能がある機合ツールがひとつあると便利。 また、各機能ごとの単品の用館でも可。	■手卒ら際にも強い器 100%のものを。 夜手猿は、 ガラスの破片の片付け等で後に立つ。	数即用、避難はしごの代用となる。人の体量を支え られる強度のあるものを。	12~20をまとめて収納する。	・とび抜き、ピンセット等として使える。		12~20をまとめて、11 (教祭職) に収制する。	
語名 等5出し袋 だパン (110g) イトル入り飲料水 (500ml) グ ラ ラ ブ ア ブ ア ブ ア ブ カ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ ガ	- 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三	J.R									A-V	2000			*		-
	2 0		非常時持ち出し数	田入り乾パン (110g) 2-1	ベットボトル入り飲料水 (500ml) 6:3	寮中電灯 2・	23	518- 21	就能 ラジオ	万能はさみ 11	軍手・手袋 2)						だしか (海豚)

生理用品 ホイッスルばライト 芸婦 芸婦 プラシ 化知品 おのものシート	3.	3. 女性用品	●個々の事情によって必要性が異なる。
ホイッスルオライト 職 ブラシ ん部記 おのものシート	-	生理用品	傷の手当て等ガーゼの代用としても重宝する。
線 プラシ (左離8) おひものシート	N	ボイッス儿はワイト	
プラックが保護品がある。	m		
方剤品がひかって	4	ブラシ	
おりものシート	2	化粧品	
	9	おりものシート	下着の代用としても重宝する。
	+	高齡者用品	●個々の事情によって必要性が異なる。
1. 高齢者用品	,	日本 かんかん 中の	

●個々の事情によって必要性が異なる。							●個々の事情によって必要性が異なる。												非常時待ち出し袋には入らない。
4. 高齡者用品	高齢者手帳	おむつ	智替え	持終業	予備メガネ	香護用品	5. 赤ちゃん用品	報言ルク	幅乳瓶	羅 知愈	スプーン	蟾壳拐	バスタオル	ガーゼ	業おむし	母子手帳	玩具	智替え	ベビーカー
4. 船	٠	N	ო	4	ß	9	tio LO	-	N	ო	4	D	9	7	00	o	10	-	72

非難器において、アイフにいびないにもは候釜。「簡単イン」としても指されている検索のものを、 形木のゴムウはかりを引きません。 形れの抗治数の、ケガの手当てなが正議等だい。 M

2枚~ 4 极~ 10枚 10-6

崇託等の経職犯験プレンケット。

一人あたり 1 最分程度がほしい、途職先のスペース

・あわせて処力量のコピーも。

國川團

20

1枚 2枚

サバイバルブランケット レジャーシート 2畳 整備 薬・ 特 を が ど

22

7

癌郎アイフ

23

97IL ポン株

24

2枚 2枚

三角巾 775

17 9 10 用性が高いので、少し多めに用意するのがおすすめ、 大小らわせて 10 教程度、特を入れる、商具の代用 としてからる等、乳目性が高い。

そに話ける。ヤインの語が、砂田湖。

みがない場。数に立つ。

2個~ 約50枚

ウエットディッシュ トイレットベーバー

27

28 29 8

26

25

公集電話用。100 円面も可。(カード系の機種は着 気が落ちていると使えない。)

伝館メモを貼るなど。

<u>+</u> 4 メモ能の、ベン酸。

1 254

油柱マジック (太) ガムテーブ (布製) 現金 (10 円玉)

筆記用具

3

●袋の重量目安は一般的に、男性 16kg、女性 10kg と言われますが個々の事情に合わせた調整が必要です。 (ちなみに当リスト基本品目セット「大人2人分」の重量は約 8kg になりました。)●これらの品は「非常時持ち出し袋」に入れ、いざというときにすばやく持ち出せる所におきましょう。●「1 次持ち出し品」とともに、遊業時に身につける「的災頭巾」「はきもの」も備えましょう。

1 O. 編集後記編集委員長 石井 勇



平成22年、山田淸初代会長の発案で発足した災害対策コーディネーター茂原も、早いもので設立以来10年の節目を迎えることができました。

この間、平常時の各種訓練や自己研鑽、茂原市の地域防災 訓練に参加・協力。災害発生時は、災害ボランティアセンタ 一運営に参加や、被災者へのボランティア活動等行って来ま した。無事なんとかこなせてきましたのも関係諸団体の方々 や、会員の皆様の協力によるものと、深く感謝致しておりま す。

本記念誌発行に当たり、私たちの歩んできたことの振り返りの意味として、活動してきたことを取りまとめてみました。 又、近年異常気象等によりいろいろな災害が発生していま

す。平常時から備えが必要と言われております。各自主防災会の訓練のお手伝いが少しでも出来ればと考え、訓練指導できるよう訓練を積んでおります。その内容も紹介していますので、ぜひお声がけ頂ければ幸いです。

今後とも、茂原地区での発災時には会員の皆様の力で復旧復興等の活動を続けていきたと思っています。

編集にあたり資料を提供いただいた方、編集に従事された方々に感謝申し上げます。

令和2年4月

千葉県災害対策コーディネーター茂原 10周年記念誌編集委員会

発 行 日 令和2年4月20日

編集委員長 石井 勇編集委員 山田 淸

印刷・製本 千葉県災害対策コーディネーター茂原

問い合わせ先 会 長:岩名地 桂

〒297-0031 茂原市甲野新田47-2

電話:0475-23-6551

編集委員長:石井 勇

〒299-4114 茂原市本納3181-1

電話:0475-34-2671